

図書館利用学習のための入門授業 (1)

—— 総合的学習「ゴッホのひまわり」授業の構想と実践 ——

栗原 昭徳

A First Lesson to Learn Using School Library —Planning and Practice
Integrated Lessons “Let’s Research about Gogh’s Himawari in School Library”

KUWAHARA Akinori
(Received February 10, 2005)

キーワード：総合的学習、図書館利用学習、調べ学習、ゴッホ

1. はじめに

2004年12月、OECDとIEAによる国際的学力調査の結果がマスコミを通して公にされると、日本の子どもの学力低下の実態が明らかとなり、「ゆとり教育」への批判の声が一瞬、声高に叫ばれるようになった。具体的には週五日制への批判である。それに付随するように、生活科や総合的な学習の時間(以下、総合的学習)にも、いっそう厳しい目が向けられている。(注1)

けれども、私に言わせれば、その批判は当たっていない。生活科や総合的学習の理念や目標には一点の非もないのである。いや、非がないどころか、生活科の「具体的な活動や体験を通して」や総合的学習のねらいや方法などの記述は、21世紀の教育方法を先取りしているのである。

声高な批判の論拠はいくつか考えられるが、一番の問題は、生活科や総合的学習を担当する教師の実践的指導力にある。授業実践の方法や子どもの活動の事実が無いことと、生活科や総合的学習への非難が、混同されてはならない。(注2)

それにしても生活科の新設や総合的学習の導入をする際に、それらの実践の方法や学力などは、その理念や目標の素晴らしさが華々しく語られたわりには問題にされて来なかった。とりわけ、総合的学習においては、指導方法への意識も欠如していて、放任に近い実践が多く見られた。例えば、コンピューター任せの放任授業や、外部教師への「丸投げ授業」、子ども自らの「這い回る」ような調査活動など、総合的学習の理念とは程遠い実践は各地の附属学校においても総合的学習の研究校においても散見された。多くの実践現場で、生活や総合的学習の授業が成立していないと言われるが、じつはそれ以前に国語や算数(数学)などの主要教科までもが成立していない場合が多いのである。

2. 授業の構想と資料の収集

2004年6月24日、鳥取県八橋小学校からの招聘に応じて、子どもたちのコミュニケーション能力を高めるための授業指導の基本について講演をする機会を得た。そのおりに、この八橋小学校が図書館利用学習の鳥取県教育委員会指定校であることが判明し、真山昭子校長に対して2学期のうちに図書館利用に関する基本的な授業をする旨のお願いをしておいたのであった。

2学期始めの9月1日、本論で報告する提案授業を実施した八橋小学校長宛に「小学校の総合的学習、図書館利用学習の指導方法」の研究のために、八橋小の6年生と一緒に図書館での調べ学習の指導をしてみたいと考えているのです」と伝えた。(注3)

同日、山口大学教育学部総務企画係に12月12日(日曜)から14日(火曜)までの3日間の出張を申し出た。

10月には、ひろしま美術館での展覧会に赴き、以下の資料を入手した。

- ・パスカル・ボナフー著、高橋啓訳『ゴッホ』創元社「知の発見」双書03、1990。
- ・南川三治郎著『ゴッホを旅する』世界文化社、2003。
- ・ゴッホの「アルルのゴッホの部屋」「銅壺のあみがさ百合」「コルドヴィルの藁(わら)」「自画像」等の複製画(縮小)。
- ・ゴッホの絵画絵はがき(8枚入、2セット)。

・アムステルダム・ゴッホ美術館製「カラスのいる麦畑」ポスター(パッケージ入り)
じつは、この三角柱型のポスター・パッケージの基本色はゴッホの濃紺であり、その濃紺をバックにゴッホの鮮やかな黄色の手書きサイン(Vicent)が浮かび上がり、さらにオレンジ色の活字で「van Gogh MUSEUM」の文字が印刷してある。そのうえ、これまた鮮やかなアルルの空と水の色でゴッホ美術館のホームページのアドレスが刻印されていて、教材としての値打ちをいっそう高めている。このポスター入れを入手してからは、私自身の授業の構想に拍車がかかった。

3. 総合的学習における図書館利用学習の入門授業の典型として

学校図書館での調べ学習とはいいながら、たんに教師から課題を提出して、子どもたちに調べてもらうという形にとどまることなく、総合的学習における「調べ学習」の一つの授業の典型を提起したいと考えた。

そこで、①どの教科・領域の授業にも共通する「授業参加のためのルールやマナー」などの学習規律の指導から、②総合的学習に独自の学習方法の指導、さらに③1時間ごとに変化発展する総合的学習にふさわしい学習内容をふくめた「学習規律・学習方法・学習内容」の三つの指導を明らかにしようとも考えた。とりわけ、①の学習規律に対する現場の理解と指導力には疑問を抱いていて、授業を成立させるためには、この学習規律の指導が不可欠であることに気付いてほしいとの強い願いを、長い間、持っていた。(注4)

また、学習準備の仕方、チャイムの合図と授業の始め方、日直の仕事、学習係の仕事、鉛筆の持ち方、ノートの使い方などをふくむ、いわゆる授業の基本的事項の指導を始め、いわゆる「ノートづくり」や、わかる授業の基本的用具としてのハサミ・ノリの使い方なども、この提案授業では扱いたいと考えた。

じつは、授業での気付き(notice)をメモするための「ノート」、たくさんの知識の中から自分で選択し「分け取り、加工するための道具」としての「ハサミ」、そして自分で獲

得した知識を定着させるものとしての「ノリ」は、ぜひともこの授業に持ち込みたい。さらにそれらの学習用具の使い方や、家庭学習の仕方、学習習慣の育成をも射程距離に入れるような図書館利用学習の入門授業を構想したのであった。

11月下旬には授業の構想を促すようなタイミングで、朝日新聞の広告の中にゴッホのひまわりの絵が現れた。週刊朝日百科シリーズの宣伝広告であった。日本でゴッホの大作「ひまわり」を収蔵している美術館を取材した『美術館を楽しむNo.6 損保ジャパン東郷青児美術館』（朝日新聞社、2004年11月21日発行）を入手した。

4. 授業の大よその流れ

12月1日（水）の早朝には、2日間にわたる2時間の授業の大よその流れを書き出してみた。以下の「八橋小図書館授業、初案メモ」が、それである。

栗原「ゴッホ授業」

○真山校長へ「授業実施願」の提出

6学年50名、図書館利用学習、

ゴッホの「ひまわり」の絵を提示する。

まず、個人が知っていることを発表してもらう。

発表内容を板書する。

ノートの配布。

ノートの使い方、月日、授業者・栗原の名前も。

本時の課題をノートに書く。

テーブルグループで話し合ってもらおう。

図書館の中で、調べてみる。8分間。

調べたことを発表する。

板書（ゴッホについての知識と、調べ方を中心に）

はさみ・糊（チューブ入り）も配布する。*栗原のプレゼント。

家庭学習「ゴッホについて調べてみること。

分かったことをノートに書いてくること。

時間は30分。できる人は30分を超えてもよい。

明日の朝、見せてもらいます。

ノートに題名と名前も書いてきてください。」

朝、宿題ノートを集める。

1時限目、栗原、ノートのチェック。

2時限目、「ゴッホ授業」第2時限目。

ノートを紹介し合う。

さらに10分、調べてみる。

パソコンでも調べてみる。

図書館の先生のアドバイスもいただく。

植木の提示。オーベル村のマロニエの実から発芽したもの。
いわば「ゴッホのマロニエ」です。
どこに植えるか、先生やお父さんにも相談してみてください。

正月休みにも調べてみてください。
今度、近くを通ったら知らせますので、その後の様子も教えてください。
ノートを見せてください。(2004.12.1.06:42)

12月11日(土)にはゴッホの絵画資料のコピーを終え、翌12日(日)、鳥取県(現、琴浦町立)八橋小学校への出発の朝には、ほぼ資料の作成を終えた。

5. 教材および参考資料

授業の中で子どもたちに対して提示したり、配布したりするために準備したゴッホの絵画コピーや教材等は、大きくは次に掲げる14の物である。絵の名称や出典、参考資料など、できるだけ明らかにしておきたい。

- ①ゴッホ「ひまわり」損保ジャパン東郷青児美術館蔵(東京)
週刊朝日百科『美術館を楽しむNo.6 損保ジャパン東郷青児美術館』朝日新聞社、2004年、3ページ。縮小コピー。配布するB5ノートに貼れる大きさ。
- ②ゴッホ「糸杉のある道」クレラー・ミュラー美術館蔵(オッテルロー)
南川三治郎著『ゴッホを旅する』世界文化社、2003、141ページ。
- ③ゴッホ「アルルのはね橋」クレラー・ミュラー美術館蔵(オッテルロー)
同上、130ページ。
- ④写真、現在のオーヴェール村の教会の様子(栗原撮影、2001.9.19)
- ⑤ゴッホ「オーヴェールの教会」オルセー美術館蔵(パリ)
絵葉書、Musée d'Orsay, Paris。
- ⑥ゴッホ「ドービニーの庭」ひろしま美術館蔵(広島)
絵葉書。
- ⑦ゴッホ「ひまわり」メトロポリタン美術館(ニューヨーク)
前掲『美術館を楽しむ6』5ページ。
- ⑧写真、刈り取られた後の麦畑の風景
オーヴェール村にて栗原撮影(2001.9.19.)
- ⑨ゴッホ「自画像」個人蔵
- ⑩ゴッホ「自画像」ワズワース・アシニウム美術館(ハートフォード)
- ⑪ゴッホ「ガシェ医師の肖像」オルセー美術館蔵(パリ)
- ⑫ゴッホ「タンギー爺さん」ロダン美術館蔵(パリ)
- ⑬ゴッホ「カラスのいる麦畑」
オランダ、アムステルダム、ゴッホ美術館による複製画。
- ⑭上記「カラスのいる麦畑」の入っていたパッケージ
両端を指先で押すだけで中の絵を出し入れすることができる。
機能的な仕掛けも素晴らしい工夫が施してある。
- ⑮マロニエの苗を植えた植木鉢1鉢

オーベール村のゴッホのアパート裏の林で拾ったマロニエの実が発芽し育ったもの。いわば「ゴッホのマロニエ」。授業の最後に提示する予定で持参。

以上が、直接、授業を実施するために準備した教材のリストである。

6. 最終的な指導案の作成

実際の授業に用いるための指導案は、授業実施の前日（12月12日、日曜）と、授業実施当日（12月13日、月曜）の午前中に作成した。

というのは、図書室の蔵書や机の配置や、蔵書の様子をあらかじめ調べないことには、実際に授業を実施するための指導案にはならないからである。

八橋小学校の先生方には、13時の昼休みの時点で配布することになった。

以下の指導案は、授業実施の直前まで加筆修正をしながら作成したものである。

2004.12.13.月.10:20.

14:04実施直前加筆分

総合的学習指導案

授業者 栗原昭徳
(山口大学教育学部・教授)

日時 2004年12月13日（月曜）5時限（14時05分はじまり）

12月14日（火曜）2時限（9時35分はじまり）

子ども 鳥取県東伯郡東伯町立(現、琴浦町立)八橋小学校6年児童、50名

場所 八橋小学校図書室

テーマ 図書室で調べてみよう—「ひまわり」を描いたのはだれか

栗原授業の目的

- 「総合的な学習の時間」の一環としての図書館利用学習の指導方法を探る。
 - 授業参加のための基本的なルールやマナーなどの学習規律も指導する。
 - 同一の課題を調査することを通して、身近で具体的な調査の仕方を学び合う。
 - ノートの使い方、ハサミとノリを使った学習方法の基礎を指導する。
 - 学校の授業から家庭学習へと発展させるとともに、家庭学習の成果を授業に生かす。自主的な学習習慣を育てる一助ともしたい。
- *大学への届出は「小学校の総合学習、図書館利用学習の指導方法」としてある。

本時の目標

- 授業に参加するためのルールやマナーなどにも着目させ、「授業の実力」を養う。
- ゴッホについての知識を発表し合うとともに、調べたことを発表し合う。
- わからないことを調べる方法（調べ方）を自分なりに見つけ、みんなで考え合う。
- ハサミやノリを使っの学習を体験するとともに、ノートの使い方を工夫する。
- 発展的な家庭学習を提示して家での学習を試み、調べることの楽しさを味わう。

- 準備物 ○ノート、ハサミ、ノリ（各55ずつ）
 ○ゴッホ作品のカラーコピー（各55部）
 1日目、①ひまわり、②糸杉、アルルのはね橋
 2日目、③オーベールの教会（絵と写真）、ゴッホ自画像、ガシェ医師、ほか
 ④タンギーじいさん
 ○カラスのいる麦畑（1890、アムステルダム・ゴッホ博物館ポスター、箱入り）
 ○植木（ゴッホのマロニエ） 1鉢

指導過程（第1日目）

○以下は、教師の働きかけ

C「・・・」は、予想される子どもの活動

1 ■授業の始まり

○授業の開始時刻は守られているか

「授業の実力」の基礎。評価する。

学級の「授業の実力」についても、単語を板書して評価する。

○着席の姿勢、学習準備などについても評価をしながら指導する

○日直の授業始まりの合図や「あいさつ」の声についても指摘する

2 ■ゴッホの「ひまわり」の絵（コピー）を配布する

○絵を手にした時の子どもたちの動きに着目して、知っていることを発表してもらう

C「ひまわり」という絵だ。どこかで見たことがある。描いたのはゴッホだ。

教師は、子どもたちの発表を板書しはじめる

（縦書き。右半分にゴッホについての知識を、左半分に調べ方を板書する。）

3 ■ノートの配布とノートの書き始めの指導

○ノートの配布

教師「スピードのあるノートの配り方も『授業の実力』だよ」

○ノートの使い始め、月日、授業者・栗原の名前も書く

授業の題は、子どもたちの言葉から選んで、

「ひまわりを描いたのはだれか」に近いものにする

4 ■図書室で調べてみる

10分間（図書室の時計で約束する）

5 ■調べたことを発表する。

板書（ゴッホについての知識と、調べ方を中心に）

6 ■宿題を提示する

○ノート、ハサミ・ノリ（チューブ入り）も配布する。

家庭学習「ゴッホについて調べてみること。

分かったことをノートに書いてくること。

時間は30分。できる人は30分を超えてもよい。

明日の朝、見せてもらいます。

ノートの表紙に題名と名前も書いてきてください。」

○ノート・ハサミ・ノリは、栗原のプレゼント。

○明日の朝、宿題ノートを集める。

「今日の続きの授業は、明日の2時限目にします。」

7 ■ 授業の感想

- 「今日、私といっしょに勉強してみて、どんなことを感じましたか」
- 担任の先生、校長先生にも感想を述べていただく

8 ■ 授業終わりのあいさつ

9 ■ 板書計画 ■

授 業 の 実 力	調 べ 方	ゴ ッ ホ	ひ ま わ り ・ ・ ・	○月○日
			桑 原	

● 桑原「ゴッホ授業」第2時間目の予定メモ

- ノートを紹介し合う。
さらに10分、調べてみる。
パソコンでも調べてみる。
図書館の先生のアドバイスもいただく。
- 植木の提示。オーベール村のマロニエの実から発芽したもの。
いわば「ゴッホのマロニエ」です。
どこに植えるか、先生やお父さんにも相談してみてください。
- 正月休みにも調べてみてください。
今度、近くを通ったら知らせますので、その後の様子も教えてください。
ノートを見せてください。(メモの部分、2004.12.1.06:42)

7. 第2日目の指導案

2日目の早朝までに第2日目の指導案を作成して、朝7時30分には八橋小学校に指導案を届けた。先生方に、職員朝会までに見ておいてほしいからである。
そのままを以下に収録する。

● 桑原授業

「ゴッホのひまわり (その2)」

とっとり・ことうら八橋小学校

指導過程 (第2日目)

○以下は、教師の働きかけ

C「・・・」は、予想される子どもの活動

1 ■ 授業の始まり

- 授業開始前、日直に日付けと授業テーマ「ゴッホのひまわり (2)」を板書してもらおう。
- 授業の始まり。

○ノートを見せてもらっての感想（簡単に）。調べ方についても。

2 ■簡単に前時の復習

○授業テーマ「ゴッホのひまわり」は、みんなの発表の言葉から生まれたこと

○ゴッホの正式の名前は？ C 「ビンセント・ファン・ゴッホ」

弟の名前は？ C 「テオ」（できれば述語の「です」を付けて）

ひまわり以外の作品名？ C 「糸杉、アルルの跳ね橋、・・・」

他に「ゴッホの生まれた国、生まれた年、死んだ年？」など。

覚えていた人を評価する。

* 「君たちの年齢では、その気になりさえすれば、一度聞いただけで覚えることができる」

3 ■ゴッホの絵（資料③）を見て、わかったこと、発見したことを発表する

○資料③（オーベールの教会（絵と写真）、ゴッホ自画像、ガシェ医師、ほか）を配布する

○3分間ほど資料を見て「一人が、3つほど見つけよう」

発表してもらおう（教師は、発表の仕方にも着目して評価する）

C 下の2枚はゴッホの自画像。人物像もある。

C ひまわりの黄色も鮮やかだったが、鮮やかな紺色もたくさん使っている。

C 教会の絵の隣の写真は、絵の元になった本物の教会かもしれない。

C 人物画のモデルはお医者さん？

（調べた子どもがいるかもしれない。じつはガシェ医師）

子どもの発表内容に関する事柄を、補足的に説明する

4 ■資料④「タンギーじいさん」の絵からわかること、発見できることは？

C 温かい感じの表情。ゴッホも好意を抱いていたかもしれない。

C 華やかな色使い。

C バックが面白い。日本の浮世絵に似ている。・・・

5 ■ゴッホの最後の作品を提示

カラスのいる麦畑（1890、アムステルダム・ゴッホ博物館ポスター、パッケージ入り）
パッケージの中から出して、黒板に貼る。

前の席の子どもたちに手伝ってもらおう。

（授業は先生と子どもが力を出し合ってつくるもの）

この絵の元になった風景が、じつは資料③の中の野原の写真です。

調べ方の中の一つに「現地に行ってみる（現地調査）」があります

ポスターの下の文字「AMSTERDAM, MUSEUM, WWW・・・」にも着目

6 ■図書室の先生にパソコンで調べていただく

みんなは時計の秒針を見ておいてください。

プリントアウトされた資料の最初の1枚を50部ほどプリントアウトしていただく

ここ10年のうちに全世界の情報を居ながらにして手に入れることができるようになりました。

図書館という場所は、ついでに学校という場所は素晴らしいところですね。

7 ■鉢植えを見せながら「ゴッホのマロニエ」の話をする

8 ■授業の感想

○「今日、私といっしょに勉強してみて、どんなことを感じましたか」

○担任の先生、校長先生にも感想を述べていただく

9 ■授業終わりのあいさつ

● 6年生のみなさんへのお願い

昨日と今日の乗原授業「ゴッホのひまわり」の感想を書いてみてください。

(できれば400字原稿用紙2枚くらいに、本気で!)

2004.12.14.05:47.

8. 子どもたちのノートから

第2日目、朝の図書室で、子どもたち全員のノートをチェックする。国語がご専門の真山校長先生も協力してくださる。

子どもたちのノートの中に、明らかに家で時間をかけて調べたと感じることでできるものが2冊ほどあった。内容といい、表現といい、良くできていたので、真山校長先生の了解を得てコピーをして、第2回目の授業の始めに資料として配布することにした。

この資料は、司書の坂口さんの手をわずらわせて、授業開始前に子どもたちの机の上に配布しておいた。その結果、子どもたちは、入室後すぐに目を通すことになった。

狭い図書室に50人の子どもが入って勉強しているので、配布するための時間だけでも節約するための方策である。

配布した資料の内容は、以下のとおり。第1回の授業のまとめをしたものである。

まとめ

六年二組 石賀 梨佳子

今日の授業をして、図書館の利用の仕方もすごく良くわかりました。

最初、ゴッホという人がかいたひまわり。そのくらいしかわかっていなかったのに、資料を出して来て、とっても良くわかりました。

図書館で私は、物語とかしか借りたことがなかったし、調べ学習の時だけしか、人物の本は借りたことがなかったけれど、ちょっとした疑問を調べるのにも本はとっても役立つなと思いました。

これからも、もっと活用したいです。

本で調べて、ゴッホは貧しいし、精神的な病気になっても絵を描いていました。

生存（生前）は、一枚も売れなかった絵が、友達のおかげで売れて、今では七十億円です。すごいなと思いました。

ゴッホの絵で、最初のころのものは明るく、あざやかな色が多かったが、だんだん暗くなっていったように見えました。これは病気の悪化とかのゴッホの心の中のくもりかなと思いました。

筆者の石賀さんも書いているように、この授業の最初で栗原が1枚の絵（ゴッホのひまわり）を配布したとき、この絵が「ひまわり」であることを知っている子どもが5名、描いた人の名前が「ゴッホ」であることを知っていた子どもが1名であった。

だからこそ、この授業の題名を「ゴッホのひまわり」としたのであった。

授業の最初には「ゴッホという人がかいたひまわりくらいしかわかっていなかった」のであるが、自分たちの力で図書室の資料を探し出してきて、たくさんのが分かりはじめてきたのであった。

炎の画家ゴッホ

六年二組 中島端月

ゴッホはオランダの牧師の家に生まれました。子供のころから純粋いで、ひたむきな反面、感情のきふくのはげしい性格でした。

そのはげしい気性（きしょう）のため、さまざまな職業に失敗したゴッホは、二十七歳の時、画家になる決心をしました。

ドラクロアやルーベンスの画風に引かれ、ミレーのような農民画家をめざしたゴッホは、オランダの各地を旅しながら絵をえがいていきました。

この時期の作品に「種まく人」、「野良の農夫」などのほか、数多くの自画像あります。パリにも行き、モネやドガ、ルノワールなど、印象派の画家と交流を深めましたが、やがて南フランスのアルルにうつりました。そしてアルルの風景を、燃えるような色彩（しきさい）と力強いタッチで作品にしました。

ゴッホのもっとも充実していたときでした。」

（以下、省略。栗原、加筆）

上記の中島さんは、ゴッホの生涯を「炎の画家ゴッホ」という題をつけて、書いてくれている。

9. 第1回授業の前に図書室で見つけた資料

指導案を作成しながらも、実際に授業をする図書室の中に、どのような「ゴッホ資料」があるものかと調べてみた。私なりに、ゴッホのことが記載されている本を捜してみると、以下のものが目についた。司書のお二人が、町立図書館から借りて来られてものもあるとのことであった。授業前の12時15分までに調べたものである。

○『21世紀こども人物館』小学館1993年刊、「ゴッホ」、88・89ページ。

○『人物世界の歴史』学研の図鑑、昭和59年刊、「ゴッホ」、46・47ページ

- 『世界の歴史人物事典』小学館版学習まんが、1995年刊、「ゴッホ」、366・367ページ
- 『行ってみたいな あんな国こんな国②、ヨーロッパ』岩崎書店、1999年刊、オランダの項に「ゴッホ」14・15ページ
- 『もっと知りたい！ 人物伝記事典1』岩波書店、2003年刊、「ゴッホ」、16・17ページ

じつは、ゴッホという画家は、日本においてもポピュラーな人物であり、子ども用の国語辞典にも百科事典にも出てくることは、以前に確かめておいたことであった。

以上が、総合的学習の一環として構想した「ゴッホのひまわり」授業の構想と準備と指導案のすべてである。

紙数の都合により、この「ゴッホのひまわり」授業の実際と分析については、「図書館利用学習のための入門授業（2）」につづく。

(注)

(注1) 2004年12月18日付けの朝日新聞中、中山成彬文部科学相の執筆による「競い合う気持ちが出発点」の記事の中で、「OECDとIEAの国際調査の結果は、日本の子どもの学力が低下傾向にあることを示した」ことを受けて、「私は、学習指導要領の見直しや、教員の指導力の向上を進めるとともに」と述べている。

さらに、年明けの2005年1月19日付けの朝日新聞の第1面には「中山文科相、総合学習削減の意向」、さらに「4教科授業増、学力低下に対処」などの大きな見出しの文字が踊り、解説記事の小見出しにも「ゆとり教育、脱却鮮明に」と書かれている。

(注2) 2004年10月2・3日、福岡県筑後市で開催された福岡県生活科・総合的な学習教育学会、秋季研究会筑後大会において、栗原は「生活科と総合的な学習を支える学びの基礎・基本」と題する指導講話をした。その中で、生活科の総合的学習の理念や目標には一点の非もない。それどころか21世紀の教育方法を先取りしていた。しかし、残念なことに生活と総合の実践を担当する教師側の指導力や実践力に大いに問題があったと提起した。指導講話の内容は、福岡県生活科・総合的な学習教育学会より『「生活科と総合的な学習」の課題と新たな方向』（2005.3.15）として刊行された。

その中で栗原の指導講話は「生活科と総合的な学習を支える学びの基礎・基本」として収録されている。同書、51～73ページ。

(注3) このたびの「図書館利用」授業のきっかけとなった依頼の手紙を、以下に収録しておく。2004年9月1日付で学校宛にFAX送信したものである。

「鳥取県東伯郡東伯町立八橋小学校

真山昭子校長先生、諸先生方へ

長い間、失礼をしています。厳しい暑さの夏休みでしたが、真山校長先生はじめ、諸先生方にはお元気で本日午前中の2学期始業式をお迎えになりましたでしょうか。

子どもたちは、元気に登校をしたでしょうか。

私の方、この夏も慌ただしいばかりで、「休み」とは言えないような「夏休み」を過ごしています。最近の大学では、本格的な夏休みは8月中旬から9月下旬までです。

1学期には、八橋小にお招きいただき、ありがとうございました。

また、大変なお世話にもなりました。

6月下旬に八橋小学校に行かせてもらったときにも、少し話しておりました件ですが、もし真山校長先生のご了解をいただけるなら、11月下旬か、12月13・14日ごろに「小学校の総合学習、図書館利用学習の指導方法」の研究のために、八橋小の6年生と一緒に図書館での調べ学習の指導を試みたいと考えているのです。

都合がつかないようなら、3月の卒業式前でもかまいません。

ここ数年の間、温めているテーマをめぐっての授業です。

子どもたちの学習に必要なノートや教材から旅費にいたるまで、経費は全て私が負担いたしますので、その方だけのご心配をかけずに済みそうです。

私が最も心配しているのは、すでに八橋小の方の公開研究会や教育計画などの日程が決められていて、先生方や6年生の子どもたちにスケジュール上の迷惑をかけることはないかということです。

9月から11月中旬までは、あいにくと各地の現場での仕事がぎっしりと入っていて、私の方のスケジュールが空いていません。

以上、こちらの都合だけを申し上げてお尋ねをいたしますが、ご検討のほど、お願い申し上げます。

私の方、9月2日・3日には、何年ぶりかの人間ドックにかかります。さすがに、この日だけは空いておりました。9月5日から8日までは、お隣の韓国に行って参ります。

9月14日に日南町石見東小学校、21日に溝口町日光小学校、24日に日南町石見西小学校まで行きますので、真山校長先生のご都合さえよければ、その前後に八橋小まで説明に参りましょう。

学期始めの真山先生の仕事が一段落して、ゆっくり時間があるときに、ご連絡をいただけると幸甚です。

2004年9月1日、12時20分

山口大学教育学部（栗原、署名）」

(注4) 2003年6月21・22日の両日、日本生活科・総合的学習教育学会の第12回全国大会が山口県萩市で開催された。栗原は、大会会長の役を務めたが、すでに、その時に下記のような会長挨拶を述べなくてはならない状況であった。

あえて、そのまま収録しておく。

「第12回全国大会（山口萩大会）開催にあたって

—今、生活・総合授業の実践が問われている—

第12回全国大会(山口萩大会) 会長 栗原昭徳

ここ1年の本学会をめぐるといえば、何と云っても外部からの学力低下批判であろう。第12回の山口萩大会では、この批判に対応しなくてはならない。

明治維新のふるさと萩で生活・総合の原点を想起しながら、同時に山口県下有数の教育実践の街でもある萩で生活・総合の輝く未来を探っていただきたい。

公開授業（保育）と協議、課題別研究発表、自由研究発表、シンポジウム、講演のいずれの場面においても、実践の事実を重視し、学力低下批判への対応をしていただきたい。

山口県支部では、学力低下批判への対応と生活・総合の未来を切り開く「生きる力」

の内実を、夢（構想力）と智恵（認識力）と絆（育ち合う力）の育成に求めた。

生活科は「各教科の授業」の中の一つであり、総合的な学習の時間は各教科・道徳・特別活動とならぶ日本の学校教育の「4分野の授業」の中の一つである。

生活科も総合的な学習も「授業」であることを、私たちは片時も忘れてはならない。

したがって、生活も総合も綿密な計画のもとに実施されなくてはならないし、どのような学力をつけるのか、どのような評価をすべきなのかも構想されていなければならない。

ところで、このたび山口萩大会に参加される先生方の学級では、

- ・どの授業の開始時刻も子どもたちの自主的な組織や力で守られているであろうか、
- ・どの授業においても忘れ物や私語が日常化しているということはないであろうか、
- ・それぞれの授業にふさわしい学習の準備が子ども自らの力でできているであろうか、
- ・どの授業においても自分の考えたことや調べたことを堂々と発表できるであろうか、
- ・互いの発表を聞き合い、触発し合いながら次元の高い発表が生まれているであろうか。

以上のように子どもたちが、どの授業においても共通して身に付けておかないと、授業が成立しづらくなったり、活発な学習になりえない指導事項が存在する。

それらに対して私は、どの教科・分野にも共通する「学習規律」と名付けてきた。

戦後の日本の教育界では、「学習規律」への誤解が連綿として続いてきている。

規律とは「ノルム（norm）」である。このノルムのある状態のことをノーマル（normal）というのであって、規律の無い状態こそがアブノーマル（abnormal）なのである。

この授業参加へのルールやマナーを含む「学習規律」の基盤の上にこそ、生活・総合の「学習内容」の習得と、生活・総合に独自の「学習方法」の習得も可能となる。

授業（保育）を公開していただく萩市の先生方には、何よりも実践の事実と子どもの姿を重視していただくことをお願いしてきた。

短い準備期間であったが、かならずや萩市の先生方の「誠実な実践」と「確かな指導」の事実を見ていただけるものと確信している。」

上記の出典は、大会要項（2003年6月21日発行）の4ページである。